

◆戦後、現在までの主な洪水と河川改修

1947(昭和22)	◆1月内務省国土局関東土木出張所は建設院関東土木事務所として発足	1967(昭和42)	◆9月矢木沢ダム竣工
◆(9月)カスリーン台風による大洪水	◆利根川治水同盟結成	◆(11月)ハツ場ダム着手	◆(12月)草木ダム着手
1948(昭和23)	◆7月建設省設置	◆利根川五大引堤完成	◆7月利根大堰竣工
◆(9月)アイオン台風による洪水	◆2月利根川改修改訂計画策定	◆(12月)下久保ダム竣工	◆4月川治ダム着手
1949(昭和24)	◆(6月)水防法制定	1970(昭和45)	◆(9月)洪水
◆(9月)キティ台風による洪水	◆(8月)洪水	1972(昭和47)	◆(9月)洪水
1950(昭和25)	◆(9月)洪水	1976(昭和51)	◆(6月)渡良瀬遊水池総合開発施設着手
◆(9月)洪水	◆(10月)五十里ダム着手	◆(4月)第3次フルプラン閣議決定	◆(9月)草木ダム竣工
1951(昭和26)	◆国土総合開発法制定	1977(昭和52)	◆(6月)奈良俣ダム着手
◆鳥神流川改修工事竣工	◆田中調節池暫定完成	1978(昭和53)	◆(6月)利根川水系工事実施基本計画改定
1952(昭和27)	◆(5月)藤原ダム工事着手	1980(昭和55)	◆(9月)洪水
◆(9月)相俣ダム着手	◆(8月)五十里ダム竣工	1981(昭和56)	◆(9月)洪水
1953(昭和28)	◆相俣ダム2期工事着手	1982(昭和57)	◆(11月)川治ダム竣工
1956(昭和31)	◆(4月)川俣ダム着手	1983(昭和58)	◆スーパ堤防整備事業着手
1958(昭和33)	◆(5月)藤原ダム竣工	1987(昭和62)	◆(2月)渡良瀬遊水池運用開始
◆(9月)洪水	◆(4月)矢木沢ダム着手	1990(平成2)	◆(3月)奈良俣ダム竣工
1959(昭和34)	◆(4月)藤原ダム着手	1991(平成4)	◆(2月)渡良瀬遊水池調節池化 暫定完成
◆(8月)洪水	◆(4月)下久保ダム着手	1995(平成7)	◆河川法改正
1961(昭和36)	◆中川改修工事着手	1997(平成9)	◆(9月)洪水
1962(昭和37)	◆基本計画(第1次フルプラン)策定	1998(平成10)	◆(9月)洪水
1963(昭和38)	◆渡良瀬遊水池調節池化工事着手	2001(平成13)	◆(9月)洪水
1964(昭和39)	◆(10月)品木ダム着手	2003(平成15)	◆(2月)渡良瀬遊水池総合開発施設竣工
1965(昭和40)	◆(7月)新河川法制定	2004(平成16)	◆首都圏氾濫区域堤防強化対策事業着手
◆(4月)利根川荒川両水系工事実施基本計画策定	◆(11月)利根大堰着手	2006(平成18)	◆利根川水系河川整備基本方針策定
◆(12月)品木ダム竣工	◆(2月)品木ダム竣工	2008(平成20)	◆上新郷地区河川防災ステーション完成
◆(11月)利根川河口堰着手	◆(12月)品木ダム竣工	2009(平成21)	◆新川通地区河川防災ステーション完成
◆(2月)菅原ダム竣工	◆(3月)川俣ダム竣工	2010(平成22)	◆稲戸井調節池暫定完成
◆(6月)洪水	◆菅生調節池暫定完成	2013(平成25)	◆大高島地区河川防災ステーション完成
		2015(平成27)	◆利根川江戸川河川整備計画策定
		2019(令和元)	◆(9月)洪水 関東東北豪雨
		2020(令和2)	◆(10月)洪水 令和元年東日本台風
			◆(9月)ハツ場ダム竣工

青字：主要な洪水

洪水への畏怖と自然の恵み…【氾濫地域文化・産業の特色】

●埼玉県三郷市の獅子舞

埼玉県三郷市は、以前「二郷半領」と呼ばれ、年々水魔により農民は苦しめられてきました。特に江戸時代、文化4年(1807)6月の大洪水の時には猿ヶ又(現・水元公園)の桜堤を破壊しなければ死者が出るという状況の中、農民は決起しました。しかし、桜堤の警戒は厳重であったため、暗い夜に乘じて、小船の先にかがり火をつけ、三頭の獅子頭を乗せて漕いでいき、警戒の人々が逃げ去ったところで、桜堤を切り開いて苦難から救われたという伝説が残っています。

この伝説になぞらえて、庭目「刀懸かり(かたながかり)」の時には、左右の茶碗に水をたたえ、桜堤に見立てた桜の木を渡し、桜堤を切り開く様子が演じられているのです。



●埼玉県久喜市の水塚

利根川中流部、思川、巴波川、渡良瀬川、荒川流域等の低地帯は、「水塚」と呼ばれる建物が数多く分布しています。これは母屋の背後に2～3m土を盛り、石を積んで、そこに米や重要な生活物資を格納する土蔵や物置を建て、これを洪水の際の避難部屋にも兼用したものです。



●埼玉県加須市の農作物

関東平野は、利根川の洪水氾濫により上流から運ばれてきた土砂が堆積してできた平野です。それは、利根川の流域を肥沃な土地として、数多くの農作物をもたらしました。北川辺のお米もそうした利根川の恩恵の1つで、その他にトマトやイチゴ、キュウリ、ナスや甘柿など多くの農作物が収穫されています。

T O N E G A W A

◆参考文献

- 『利根川百年史』関東地方建設局／建設省関東地方建設局 刊
- 『大利根百話』社団法人 関東建設弘済会 刊
- 『TONEGAWA HANDBOOK』建設省関東地方建設局 利根川上流工事事務所 刊
- 『カスリーン台風50年 第46回利根川水系連合水防演習』
- 『利根川まるごと図鑑』関東地方建設局 利根川上流工事事務所 刊
- 『利根川 322kmの旅』上毛新聞社・埼玉新聞社・下野新聞社・茨城新聞社・千葉日报社 刊
- 『「治水記念の日」式典』建設省関東地方建設局 利根川上流工事事務所 刊
- 『カスリン台風調査報告』東京管区气象台 刊
- 『カスリン台風から50年』(気象庁資料)
- 『東北地方に影響を及ぼした台風』財団法人 気象協会東北本部 刊
- 『気象災害年表』(気象庁資料)
- 『伊勢湾台風気象概報』名古屋地方气象台 刊
- 『洞爺丸台風遭難通信関係記録』社団法人日本鉄道技術協会 刊
- 『狩野川台風災害誌』静岡県 刊
- 『北川辺町の農業』北川辺町有機100倍 推進協議会 刊
- 『共に生きる都市と農村』農林水産省 刊

〒349-1198 埼玉県久喜市栗橋北2丁目19番1号
国土交通省利根川上流河川事務所
TEL (0480) 52-3952
URL <https://www.ktr.mlit.go.jp/tonejo/>

令和3年9月作成



栗橋町(現・久喜市)の浸水状況

戦後、日本国民を衝撃の渦に巻き込み、壮大なる現代利根川改修物語の序章となった

利根川

カスリーン台風による

大氾濫

利根川改修史上、最も重要な出来事。

終戦直後、GHQ占領下において、国土の荒廃と疲弊する社会経済で混乱する日本を襲ったカスリーン台風は、関東地方に未曾有の大雨をもたらし、穏やかに流れる利根川を一変させ、戦後最大の水害を及ぼした。それは、戦争突入で停止状態にあった利根川改修への意識を覚醒させ、人々は「あの洪水に耐えられる利根川を…」という強い願いと意志を抱き、新たな治水事業着手へとつながることであった。またその影響の大きさは現在においても、洪水対策の基準となっている事実からもうかがい知ることができる。カスリーン台風は、利根川改修史上、最も重要な出来事の一つである――。

石領下のを襲撃する。

日本を襲撃する。

【カスリーン台風】

しかしながら、すでに停滞していた前線により多少の降雨が続いていたところへ、台風が接近し前線を刺激、さらに台風の進行速度がかなり遅かったため、流域の広範囲にわたって多量かつ高強度の降雨をもたらしたのです。

9月8日から17日までの日雨量
(前橋測候所〈現・前橋地方気象台〉)

日	日雨量 (mm)
8	0
9	19.4
10	41.7
11	11.3
12	2.3
13	0.9
14	34.2
15	357.4
16	0
17	0

(気象庁資料)

● 台風の名称の読み方について

(気象庁資料)

写真提供:埼玉新聞社



葛飾区の惨状



JR宇都宮線の浸水状況

【昭和22年(1947)9月洪水】

このように、カスリーン台風は風害こそ少なかったものの、利根川をはじめとする関東の河川に決壊・氾濫をもたらし、流域で暮らす人々に深刻な被害を与えました。



東武日光線遠景



川辺村(現・加須市)の浸水状況



水に沈んだ我が家を
堤防の上から見つめる
栗橋町(現・久喜市)の
人々



荷物を必死で屋根へ
引き上げる(足立区)



東村(現・加須市)決壊状況



水に浮かぶ向古河(現・加須市)

[illegible]

(気象庁資料)

【カスリーンと同時代の台風】

【昭和29年(1954)9月】

この台風はカスリーン台風とは違い、典型的な“風台風”で、被害は主に強風によるものでした。函館港内では青函連絡船の洞爺丸が転覆し、タイタニック号の沈没に次ぎ、世界海難史上2位の大惨事となりました。

秋雨前線を刺激して大雨を降らせ、伊豆半島中部を流れる狩野川は大氾濫となり、流域に甚大な被害をもたらしたため「狩野川台風」と名付けられました。同時に京浜地区でも豪雨となり、横浜・川崎・東京都内の住宅地でがけ崩れを起こし、「都市型水害」の始まりと言われています。

台風通過と満潮が重なった伊勢湾で観測史上最大の高潮が発生、名古屋市南部をはじめとする湾岸の低地内を飲み込み、また前日から大雨で木曽川などが洪水を起こしていたこともあり、空前の被害となりました。平成7年(1995)1月の阪神・淡路大震災が起きるまで、戦後最大の被害を記録しました。

	年月日	地域	死者・行方不明(人)	住家の全・半壊・流出(戸)	住家の床上・下浸水(戸)	耕地被害(ha)	船舶被害(隻)
カスリーン台風	22.9.14～15	東海以北	1,930	9,298	384,743	12,927	
洞爺丸台風	29.9.25～27	全国(特に北海道)	1,761	207,542	103,533	82,963	5,581
狩野川台風	33.9.26～28	近畿～北海道	1,269	16,743	521,715	89,236	260
伊勢湾台風	34.9.26～27	全国(九州を除く)	5,098	833,965	363,611	210,859	7,576

※カスリーン台風は関東地方の被害等全国の被害

(気象庁資料)

「空前絶後」

自然が持つ破壊の凄まじさに戦慄が走る。

明治以来、最も治水に力を注がれてきた大河・利根川はカスリーン台風の猛威により、破滅への道をたどる…

堤防決壊、濁流が首都まで達し、人々の平穏な暮らしを奪い去る…

【被害状況】

カスリーン台風による洪水の猛威は止まる所を知らず、利根川水系を破壊し尽くすかの如く、至る所で堤防の決壊、崩壊が見られました。打ち砕かれた堤防から溢れ出す濁流は流域を飲み込み、多数の死傷者や行方不明者を出し、家屋は流出、倒壊、浸水し、収穫前の田園風景も一面、海原と化してしまいました。

特にカスリーン台風による被害を象徴したのは、江戸時代から「ここが切れたら浅草の観音様の屋根まで水に浸かる」と言われた利根川右岸、東村堤防が決壊したことです。これは利根川と渡良瀬川の洪水がほぼ同時刻に重なり、異常な水位上昇により、延長1,300mに渡って越水、その越水した水により堤防が徐々に破壊されたために起こりました。この氾濫流は、東京と埼玉の都県境である大場川の桜堤までも破堤させ、その後中川右岸も決壊、遂には東京都葛飾区、江戸川区、足立区まで達しました。

被害に遭った流域の人々は当時の様子を「水田が水没してしまい、水の中から刈り上げた稲は食べると泥臭く、それでも食べることができるだけよかった。」「避難生活でー

●カスリーン台風データファイル

●東村決壊データ

破堤地点	134.4km(右岸)	被害額	約70億円(一般資産+農作物等)
氾濫面積	約440km ²	最高水位	9.17m(栗橋、9月16日0時20分)
浸水域内人口	約60万人		出典:「利根川決壊」

●関東の被害状況

都県名	家屋浸水(戸)	家屋流出・倒壊(戸)	家屋半壊(戸)	死者(人)	傷者(人)	田畑の浸水(ha)
東京	72,945	15,485	56			
千葉	263	654		6	4	2,010
埼玉	44,610	34,334	1,118	2,116	86	1,394
群馬	31,091	39,938	1,936	1,948	592	315
茨城	10,482	7,716	209	75	58	23
栃木		45,642	2,417	3,500	352	550
合計	303,160	5,736	7,645	1,100	2,420	176,789

●利根川水系被害一覧表(直轄区間)

(被害状況・河川名)	利根川上流	利根川下流	江戸川	荒川
堤防決壊・破堤	650 (2)	2,650 (4)	100 (1)	242 (1)
堤防崩壊	1,790 (10)		1,000 (2)	566
堤防漏水	800 (5)			
護岸決壊・流出	8,450	3,660	780 (5)	800 (5)
水制流出	3,720	810	590 (6)	
床固破損			100 (1)	

(被害状況・河川名)	渡良瀬川	鬼怒川	小貝川	合計
堤防決壊・破堤	1,750 (13)	500 (3)		5,892 (24)
堤防崩壊	2,725		4,200 (3)	10,281 (15)
堤防漏水				800 (5)
護岸決壊・流出	6,785	1,020 (14)	1,800 (4)	23,295 (28)
水制流出	610		1,000 (4)	6,730 (10)
床固破損				100 (1)

(単位: m, カッコ内は箇所数)

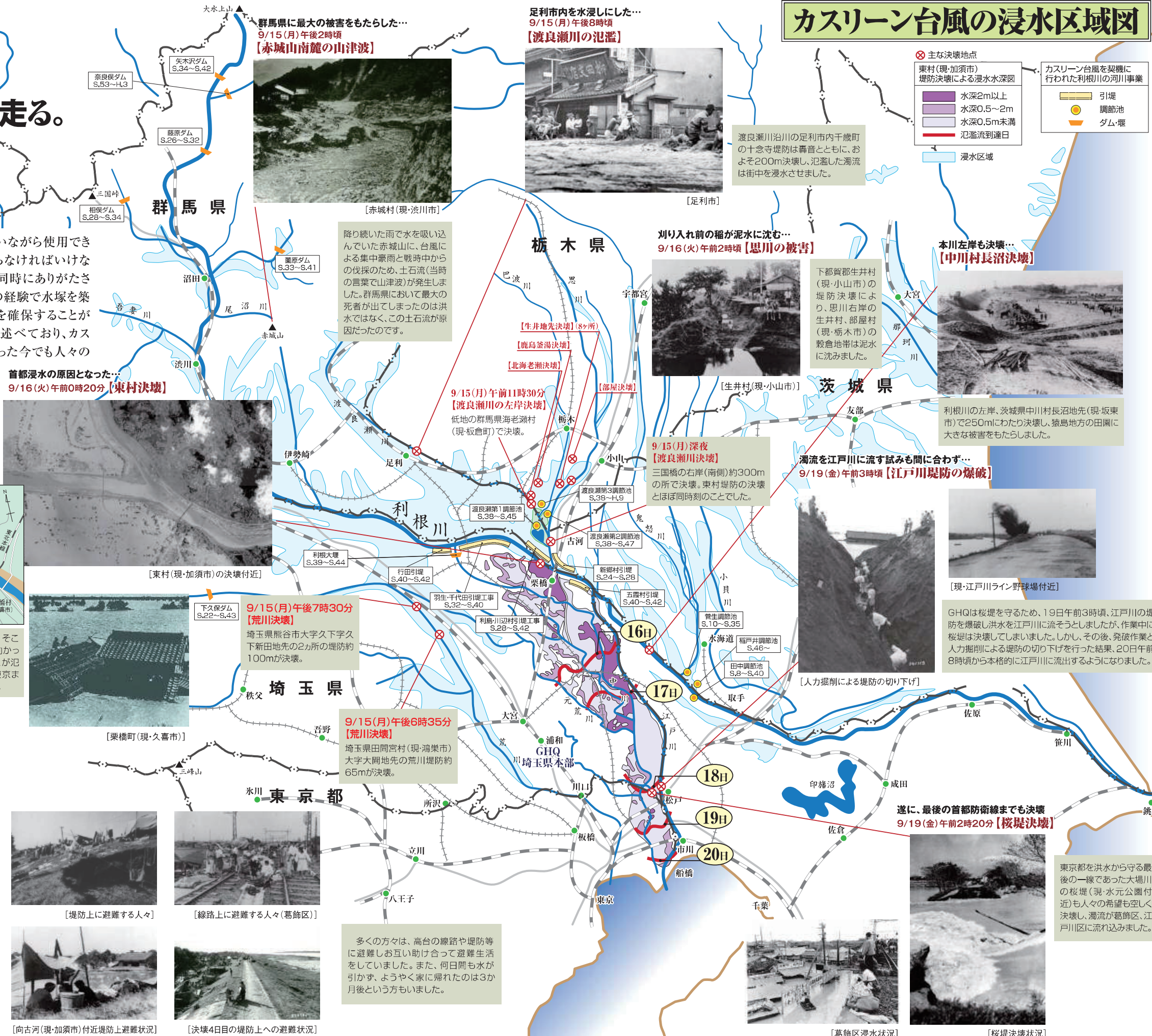
出典:「利根川百年史」

番困ったことは水の中にいながら使用できる水が無く、貰い水に頼らなければいけなかったことで、水の怖さと同時にありがたさを味わった。」「先祖代々の経験で水塚を築いていたことで避難場所を確保することができ大変役に立った。」と述べており、カスリーン台風から約70年たった今でも人々の記憶からは拭い去ることはできない悲惨な洪水であったことを物語っています。

●決壊地点略図



決壊口は最大350mにも及び、そこから下の東村と右の栗橋町に向かって膨大な土砂が流れ出し、ここが氾濫したことにより洪水は首都東京までも流れることになったのです。



カスリーン台風の浸水区域図

- 主な決壊地点
- 東村(現・加須市)堤防決壊による浸水水深図
- 水深2m以上
- 水深0.5~2m
- 水深0.5m未満
- 氾濫流到達日
- 引堤
- 調節池
- ダム・堰

カスリーン台風を契機に行われた利根川の河川事業

渡良瀬川沿川の足利市内千歳町の十念寺堤防は轟音とともに、およそ200m決壊し、氾濫した濁流は街中を浸水させました。

刈り入れ前の稲が泥水に沈む…
9/16(火)午前2時頃【思川の被害】

本川左岸も決壊…
【中川村長沼決壊】

下都賀郡生井村(現・小山市)の堤防決壊により、思川右岸の生井村、部屋村(現・栃木市)の穀倉地帯は泥水に沈みました。

利根川の左岸、茨城県中川村長沼地先(現・坂東市)で250mにわたり決壊し、猿島地方の田園に大きな被害をもたらしました。

濁流を江戸川に流す試みも間に合わず…
9/19(金)午前3時頃【江戸川堤防の爆破】



【現・江戸川ライン野球場付近】

GHQは桜堤を守るため、19日午前3時頃、江戸川の堤防を爆破し洪水を江戸川に流そうとしましたが、作業中に桜堤は決壊してしまいました。しかし、その後、発破作業と人力掘削による堤防の切り下げを行った結果、20日午前8時頃から本格的に江戸川に流出するようになりました。

遂に、最後の首都防衛線までも決壊
9/19(金)午前2時20分【桜堤決壊】



【桜堤決壊状況】

東京都を洪水から守る最後の一線であった大場川の桜堤(現・水元公園付近)も人々の希望も空しく決壊し、濁流が葛飾区、江戸川区に流れ込みました。



【葛飾区浸水状況】

多くの方々は、高台の線路や堤防等に避難しお互い助け合って避難生活をしていました。また、何日間も水が引かず、ようやく家に帰れたのは3か月後という方もいました。



【決壊4日目の堤防上への避難状況】



【向古河(現・加須市)付近堤防上避難状況】



【線路上に避難する人々(葛飾区)】



【堤防上に避難する人々】

足利市内を水浸しにした…
9/15(月)午後8時頃
【渡良瀬川の氾濫】



【足利市】



【赤城村(現・渋川市)】

降り続いた雨で水を吸い込んでいた赤城山に、台風による集中豪雨と戦時中からの伐採のため、土石流(当時の言葉で山津波)が発生しました。群馬県において最大の死者が出てしまったのは洪水ではなく、この土石流が原因だったのです。

9/15(月)午前11時30分【渡良瀬川の左岸決壊】
低地の群馬県海老瀬村(現・板倉町)で決壊。

9/15(月)午後7時30分【荒川決壊】
埼玉県熊谷市大字久下字久下新田地先の2カ所の堤防約100mが決壊。

9/15(月)午後6時35分【荒川決壊】
埼玉県田間宮村(現・鴻巣市)大字大間地先の荒川堤防約65mが決壊。

9/15(月)午後7時30分【荒川決壊】
埼玉県熊谷市大字久下字久下新田地先の2カ所の堤防約100mが決壊。

9/15(月)午後6時35分【荒川決壊】
埼玉県田間宮村(現・鴻巣市)大字大間地先の荒川堤防約65mが決壊。

9/15(月)午後6時35分【荒川決壊】
埼玉県田間宮村(現・鴻巣市)大字大間地先の荒川堤防約65mが決壊。

9/15(月)午後6時35分【荒川決壊】
埼玉県田間宮村(現・鴻巣市)大字大間地先の荒川堤防約65mが決壊。

決壊現場の被災者に…
【救援物資】



〔古河救援隊出発
(左岸堤防上・三国橋)〕



〔救援物資(四斗樽は飲料水)〕

疫病の蔓延を防ぐ…

【赤十字医療班の活躍】



避難する際の怪我はもとより、洪水後の赤痢や集団パラチフスなどの疫病の蔓延を防ぐため、赤十字医療班などが被災者の手当てを行いました。

離れた地からの救済運動…
【義援金の募集】



災害で苦しむ人々のことを聞きつけるとすぐに、各地で義援金募集の機運が盛り上がりました。

東村決壊締切りに尽力した“川の職人達”…
【川鳶の活躍】



〔東村(現・加須市)〕

木材、竹材、粗朶、玉石等を用い独特の観察眼と知識によって川の締切りや水防活動を行うプロ集団である川鳶。

災害に苦しむ人々を救った…
【GHQの救援活動】



〔葛飾区亀有小学校〕

復興のために迅速な対応を見せたのがGHQでした。特に埼玉県軍政部のライアン司令官は自ら率先して堤防決壊現場を視察し、人々を激励したのでした。

悲劇からの回復

カスリーンからの復興への足どり。

理不尽な大惨事に直面し、嘆き、悲しみにくれる被災者たち。しかしそれはやがて大きな再起へのエネルギーとなっていく…

被災者自らの力が一つになり、苦境を乗り越えていく…。

【復旧状況】

避難する十分な余裕もなく、命からがら逃げ延びた被災者たちは、家族を失い、家を流され、田畑や工場などの職場をも無くしてしまい、理不尽なまでの自然災害に途方にくれていました。しかしながら、各被災地では自主的に組合や共同組織が作られ、炊き出しや後片付け、救護隊による負傷者への医療活動など、生きようとする人々の再起にかけるエネルギーは逞しく発揮されていくのです。

加須市の決壊口の締切り作業については、内務省土木局(現:国土交通省 土地・水資源局)で緊急復旧費として、急遽、1億円(当時)の予算が組まれ、それを受け、関東

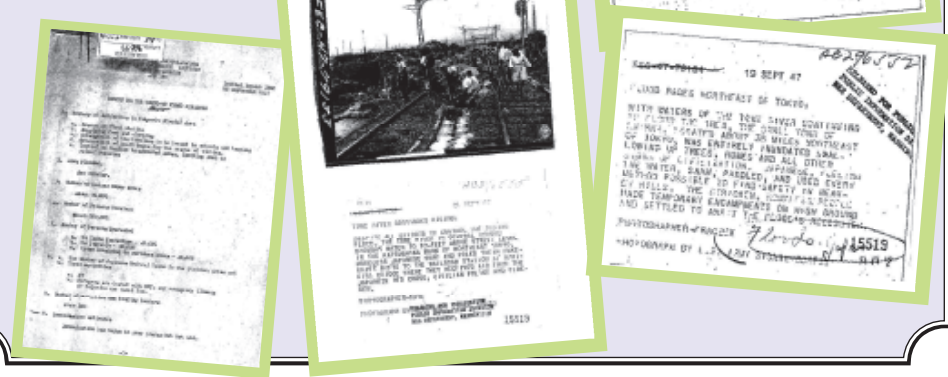
土木事務所(現:国土交通省関東地方整備局)で9月20日までに工事に必要な機材が栗橋の工事事務所に集められました。工事は昼夜を問わない突貫工事により、第1次の締切りは10月5日にはほとんど完了し、工事の関係者はこの日はじめて休みをとったほどでした。第2次締切りの開始は定かではありませんが、本復旧工事は12月から始められ、翌年の6月30日にすべて完成しました。

このように荒れ狂った利根川の被害を被った人々は、懸命に自らの知恵を絞り、希望を失わず、自然がもたらした理不尽な危機を乗り越えていこうとしたのでした。

Column アメリカが見たカスリーン台風… 【被害レポート】

当時、日本を占領下に置いたアメリカは被災者の救援だけでなく、その被害状況の調査も行っていました。

アメリカ軍による
水害状況の報告文▶



当時の台風情報とカスリーンを契機に始まった 【利根川の洪水予報】

カスリーン台風が接近した頃、すでにNHKラジオによる天気予報も復活しており、中央气象台からも9月12日の時点でかなり正確な台風報告が出されていました。ラジオ、新聞などで台風情報が報じられていたにも関わらず、その被害は深刻なものとなってしまいました。そうした教訓を踏まえ、翌年の昭和23年(1948)9月には特定河川についての「洪水報告」が必要であるとされ、「アイオン台風」の時に、建設省(現・国土交通省)と中央气象台との連携により利根川初の洪水予報が行われたのでした。



大河、新生 治水をメインとした河川施設を新装備し、生まれ変わる利根川。

壊滅状態になった利根川は、来る襲来に備え、
今、ここに逞しい大河として
産声をあげる…

カスリーン台風を出発点とし、現代治水のスタンダードを作り出した…。

【戦後の利根川治水】

太平洋戦争の勃発で、昭和13年(1938)の「利根川増補計画」に基づく「増補工事」はほとんど進捗しないまま終戦を迎え、その直後、利根川はカスリーン台風の襲来による大打撃を受けました。そこで、昭和24年2月「利根川改修改訂計画」が策定されたのです。これは利根川の治水を上流から下流まで水系一貫して行っていくとするもので、中流部では堤防を引いて川幅を広げる“五大引堤”、渡良瀬川、鬼怒川と利根川本川の合流点で洪水をコントロールする“渡良瀬遊水地および田中・菅生・稲戸井遊水地の調節池化”などが戦後の大規模工事として実施さ

れています。なお、上流部には、洪水調節(治水機能)に水利用の高度化(利水機能)が融合され“多目的ダム”が造られていきました。また、首都圏の水需要の高まりという時代背景のもと、上流のダム群により確保された水を導入する機能を持つ“利根大堰”を中流部に設けることになり、利根川は東京都、埼玉県の水道用水に對し、それぞれ約4割、約7割を占めるに至っています。

その後、利根川流域は氾濫区域の人口の増加やそれに伴う水需要の急増に伴い、平成18年(2006)には「利根川河川整備基本方針」が、平成25年(2013)には「利根川・江



▲稲戸井調節池の掘削状況

戸川河川整備計画」が策定され、現在の改修工事はこの計画をもとに、すすめられているところだ。

狭い川幅を広げ、多くの水を流下させる…
【五大引堤】

五大引堤とは川幅が狭かった利根川中流部の新郷村(現・古河市)、川辺・利島村(現・加須市)、羽生・千代田村(現・羽生市)、五霞村(現・五霞町)、行田の五カ所において堤防を移動し、川幅を確保することです。工事に伴う大量の土砂運搬は大型機械が使用されましたが、運ばれた土をならし固める作業は人力で行われました。

昭和24年度(1949)から相次いで着工し、昭和42年度(1967)には全て完了しました。

治水・利水の機能を併せ持った…
【多目的ダム】



▲蘭原ダム

多目的ダムとは都市・農業・生活用水、発電、洪水調節と多様な目的を持ったダムのことです。当時は現在ほど高度な技術を持つ機械はなかったため、足でかせぎ、眼で確かめ、最も適切な新しい技術を採用すべく、喧々囂々の議論を重ね、十分納得して造られました。

利根川の水を東京へ…
利根大堰

利根大堰は、昭和39年(1964)の東京オリンピックをひかえ、東京砂漠と言われた首都東京の水飢饉を救う切り札として行われた利根導水路事業の一環として、昭和38年(1963)に工事着手されました。これにより、現在、東京の水道用水の約4割がまかなわれるようになっています。



▲利根大堰を下流から望む

苦い経験と教訓を生かして…

【利根川水系連合・総合水防演習】

カスリーン台風による苦い経験と教訓を活かすため、昭和27年(1952)決壊口である加須市新川通地先(当時東村)で、「第1回利根川水系連合水防演習」が行われました。これは、カスリーン台風による被害が、東京や埼玉をはじめ、群馬、栃木、茨城、千葉、神奈川に及んだため1都6県で開催されています。※平成26年 第63回に改称



▲第1回利根川水系連合水防演習の様子

記憶を風化させないために…

カスリーン台風による水害を忘れないようにと、現在、氾濫した利根川周辺地域ではハード、ソフト両面において、さまざまな取り組みが行われ、人々の胸に水防の重要性を刻もうとしています。

●カスリーン公園

堤防が決壊した加須市は、現在スーパー堤防が築かれ、カスリーン公園と名付けられた公園となっており、「決壊口跡の碑」などが建てられています。



▲決壊口跡の碑

●電柱の赤い帯

加須市、久喜市の電柱には当時の浸水水位が示され、日常においても水害の怖さを胸に刻ませています。



●治水の日

利根川が決壊した9月16日は「治水の日」と定められ、例年、洪水の恐ろしさを再認識し、再び大惨事を起こさないようにと式典が行われています。

